

7章 | 食事・栄養摂取を促す技術

食事介助

(本文 p.136~139)

気づいたこと,できたこと,
できなかったことをMEMOしてね



評価項目	回数・日付	評価	MEMO
① 患者に目的と方法を説明することができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
② 患者の同意を確認することができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
③ 手洗いをすることができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
④ 患者の準備をすることができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑤ 食事にふさわしい環境を整えることができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑥ 食事を準備することができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑦ 患者のペースに合わせて食事を口へ運ぶことができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑧ 食後は口腔内を清潔にすることができる.	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		

7章 | 食事・栄養摂取を促す技術

経管栄養法

(本文 p.140~145)

気づいたこと、できたこと、
できなかったことをMEMOしてね



評価項目	回数・日付	評価	MEMO
① 患者に目的と方法を説明することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
② 患者の同意を確認することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
③ 手洗いをすることができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
④ 患者の準備をすることができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑤ 必要物品を準備することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑥ チューブを挿入することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑦ チューブが胃に挿入されていることを確認することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		
⑧ チューブを固定することができる。	1 (/)		
	2 (/)		
	3 (/)		

⑨ 上半身を挙上した状態で注入食を注入することができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑩ 注入速度は100mL/30～60分で、患者の状態を観察しながら注入食を注入することができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑪ 注入終了後チューブを抜去することができる。 ※留置の場合は保護することができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑫ 患者の体位を30分以上保持することができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑬ 後片付けをすることができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑭ 患者の状態を観察することができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑮ 手洗いをすることができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	
⑯ 報告・記録をすることができる。	1 (/)	
	2 (/)	
	3 (/)	

※友だちや患者さんから言われたことも書いてみよう（評価した人も書こう）。

